

ステロイド外用薬の ランクと使い分け

●ステロイド外用薬のランク

ステロイド外用薬はお薬の効果の強さにより5ランクに分類されており、症状に応じて使い分けられています。

ステロイド外用薬の
強さのランク

最も強い(ストロングスト)

とても強い(ベリーストロング)

強い(ストロング)

中程度(ミディアム)

弱い(ウィーク)

●症状の度合い

軽微

ステロイドを含まないぬり薬を使用します。

軽症

ミディアムクラス以下のステロイド外用薬を主に使用します。

中等症

ストロングまたはミディアムクラスのステロイド外用薬を主に使用します。

重症

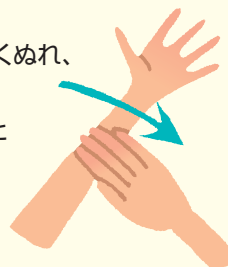
ベリーストロングまたはストロングクラスのステロイド外用薬を主に使用します。症状によっては、ぬる部位を限定してストロングストクラスを使用することがあります。

※ 症状が軽減した場合でも、ステロイド外用薬のランクを勝手に下げたり、ぬるのを勝手に中止したりせず、必ず医師の指示に従ってください。勝手に判断により、症状が再度あらわれたり、症状が悪化したりすることがあります。

保湿剤の使用における アドバイス

保湿剤は毎日欠かさずぬることが大切です。

- 1 入浴後タオルでふいた後、
すぐにぬりましょう。
- 2 長続きさせるためにも、長時間かけずに、
2分くらいで全身にさっとぬりましょう。
- 3 保湿剤は手のひらに多めにとり、
皮膚の表面にまんべんなくたっぷりのぼします。
- 4 皮膚のしわに沿ってぬるとすばやくぬれ、
ぬり残しがあまりでません。
8の字または円を描くようにぬると
よいでしょう。
(体のしわは横に走っています。)
- 5 夏はローション、冬はクリームを使用するなど、
季節に応じて使いやすいものを選ぶとよいでしょう。



医療機関

提供：岩城製薬株式会社

2013年11月作成

アトピー性 皮膚炎

適切な治療の ポイント

アトピー性皮膚炎の治療では、適切な治療を心がけることが大切です。ぬり薬の量や使用頻度、使用期間などを遵守することで、症状が再度あらわれたり、症状が悪化したりするのを、より防ぐことが期待できます。

【監修】

九州大学医学部 皮膚科学教室 教授 古江 増隆 先生

IWAKI SEIYAKU CO., LTD.

アトピー性皮膚炎の状態に応じた治療のポイント

アトピー性皮膚炎の状態に応じて、適した治療方法が選択されます。

● かゆみや炎症をすみやかに軽減するために行う外用による治療

- ステロイド外用薬をぬる
- タクロリムス軟膏をぬる

● 症状が持続する場合、おさまっていた症状が再びあらわれた場合に行う外用による治療

- 症状があらわれたら早期にタクロリムス軟膏をぬる
- 症状が悪化したら、その度合いに応じてステロイド外用薬をぬる

● 症状が重い場合、症状が治りにくい場合に行う治療

- ランクの高いステロイド外用薬をぬる
- 飲み薬(シクロスポリンやステロイド内服薬)を飲む
- 紫外線治療を行う
- 心身医学的なアプローチを行う



※ 症状によっては、抗ヒスタミン薬や抗アレルギー薬、抗菌薬などによる治療も並行して行うことがあります。

アトピー性皮膚炎におけるぬり薬使用のポイント

● 適量のぬり薬を使うこと

「ステロイドは怖い」という印象をもたれているためか、ぬり薬の使用量が不足している場合が多々見受けられます。適量のお薬をぬらないと効果が得られません。以下の量を目安とするとよいでしょう。

ぬり薬の使用量の目安

大人の人差し指第一関節の長さくらいの量が0.5g



大人の手のひら2枚分くらいの広さの患部に

20~25gチューブの場合

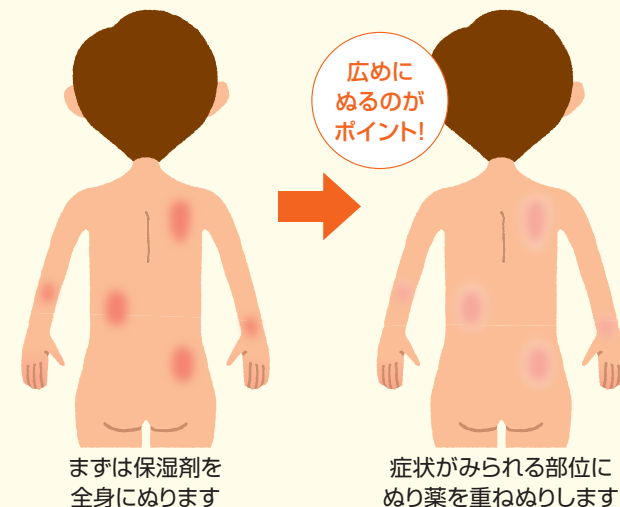
● ぬり薬のぬり方

広い範囲にぬるときは、ぬり薬を数カ所に分けて置きます。ぬるときは、手のひらで体や腕のしわにそって横にやさしく伸ばすとよいでしょう。



● 保湿剤とぬり薬を重ねてぬりましょう

保湿剤を乾燥している全身にまんべんなくぬり、その後、赤みやかゆみなどの症状がみられる部位にぬり薬を重ねてぬりましょう。ぬり薬は症状がみられる部位よりも広めにぬることが大切です。



● ぬり薬の使用をすぐにやめないこと

ぬり始めて3~4日で赤みやかゆみがなくなったとしても、指でつまんでまだ固いところは、炎症がおさまっていないため、柔らかくなり、赤みやかゆみが軽減するまで、10日~2週間くらいはぬり続けます。ただし、再発を防ぐためにも、保湿剤は続けてぬりましょう。



ぬり方については、ご自身で勝手に判断せず、必ず 医師の指示に従ってください。